

令和4年12月15日 総務文教委員会資料 企画管理部

目 次

【報告事項】

- 1 G7 富山・金沢教育大臣会合の開催について …………… 1 頁
- 2 第2期富山広域連携中枢都市圏ビジョン（案）について …… 3 頁
（別冊あり）
- 3 富山市民芸術創造センターの耐震診断の結果について …… 5 頁
- 4 富山市民スマートシティ推進ビジョンの策定について …… 7 頁

1 G7 富山・金沢教育大臣会合の開催について

[企画調整課]

来年5月19日（金）～21日（日）に開催されるG7広島サミットに関連して、富山県・石川県において「G7富山・金沢教育大臣会合」が開催されるもの。

G7教育大臣会合

先進7か国（日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ）及び欧州連合（EU）の教育担当大臣等が出席し、国際社会が直面する主要な教育問題に関する意見交換を行う会合

1 G7教育大臣会合の概要

(1) 名称 G7富山・金沢教育大臣会合

*これまで国内で開催した閣僚会合で複数自治体による共催は初めて

(2) 日程 令和5年5月12日（金）～15日（月）

*5月12日（金）及び13日（土）は富山市、5月14日（日）及び15日（月）は金沢市で開催

2 本市で開催が見込まれる行事等

大臣会合、二国間会談、学校現場の視察、地元主催歓迎レセプションなど

3 G7教育大臣会合に関するこれまでの経緯

日付	事項
3月31日（木）	富山県がG7教育大臣会合の誘致を表明
4月3日（日）	石川県がG7教育大臣会合の誘致を表明
4月19日（火）	松野官房長官へ新田知事、藤井市長がG7誘致を要望
4月21日（木）	末松文部科学大臣へ新田知事、藤井市長がG7誘致を要望
9月16日（金）	文部科学大臣が公式発表 （富山県（富山市）及び石川県（金沢市）の共催決定）
10月1日（土）	富山市G7教育大臣会合推進チームを設置
10月25日（火）	文部科学大臣が公式発表（名称・日程）
10月27日（木）	第8回石川県・富山県知事懇談会（富山市長・金沢市長が参加） ※G7教育大臣会合の共同開催について意見交換を実施
11月29日（火）	第1回富山市G7富山・金沢教育大臣会合庁内推進会議を開催
12月1日（木）	第1回G7教育大臣会合富山県委員会（設立総会）を開催

【参考】

G7 倉敷教育大臣会合及びG7 富山環境大臣会合の概要

名称	G7 倉敷教育大臣会合	G7 富山環境大臣会合
日程	平成 28 年 5 月 14 日(土)・15 日(日)	平成 28 年 5 月 15 日(日)・16 日(月)
参加国	7 か国 1 地域 日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、EU	
国際機関	<ul style="list-style-type: none"> ・経済協力開発機構 (OECD) ・国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境ファシリティ (GEF) ・持続可能性を目指す自治体協議会 (ICLEI) ・経済協力開発機構 (OECD) ・国連環境計画 (UNEP) ・国連グローバルコンパクト (UNGC) ・100 のレジリエント・シティ (100RC)
参加者数	約 130 名 (うち国内約 60 名) ※報道関係者約 280 名	140 名 (うち国内 40 名) ※報道関係者 265 名
主要テーマ	教育におけるイノベーション ～平和と繁栄、持続可能な社会の構築に向けた教育の革新～	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動及び関連施策 ・資源効率性・3R ・持続可能な開発のための 2030 アジェンダ ・生物多様性 ・化学物質管理 ・都市の役割 ・海洋ごみ
行事	<ul style="list-style-type: none"> ・大臣会合 ・二国間会談 ・地元主催歓迎レセプション ・エクスカージョン ・学校現場の視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・大臣会合 ・二国間会談 ・地元主催レセプション ・エクスカージョン ・パラレルセッション

2 第2期富山広域連携中枢都市圏ビジョン（案）について

[企画調整課]

1 趣 旨

平成30年1月に、富山市、滑川市、舟橋村、上市町、立山町の5市町村で富山広域連携中枢都市圏を形成し、圏域が目指す将来像や具体の取組などを示した「富山広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定しました。現ビジョンの計画期間が令和4年度末をもって満了することから、新たに「第2期富山広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定するもの。

※富山広域連携中枢都市圏形成の主な経過

平成29年9月5日	連携中枢都市宣言（富山市）
平成30年1月10日	連携協約の締結、連携中枢都市圏ビジョンの策定
平成30年4月～	連携事業を順次開始

2 第2期富山広域連携中枢都市圏ビジョンの主な変更点

連携協約に基づき実施する事業数の増



○新たに掲載する事業（9事業）

- | | |
|--|-----------|
| ①とやま経営実践塾開催事業 | ⑤企業誘致連携事業 |
| ②創業支援事業 | ⑥広域防災連携事業 |
| ③市民後見人育成事業 | ⑦花き生産振興事業 |
| ④オーバード・ホール(中ホール)を核とした
住民参加型イベント開催事業 | ⑧移住促進事業 |
| | ⑨SDGs推進事業 |

○第2期ビジョンに掲載しない事業（2事業）

- ①薬用植物栽培の事業化推進事業
- ②こども医療費助成事業における広域サービスの提供

3 第2期ビジョン策定の経過及び今後の予定

令和4年 5月13日	富山広域連携推進協議会
9月29日	富山広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
10月	パブリックコメント（11日～24日）
12月	連携5市町村の各議会において、第2期ビジョン（案）の報告
令和5年 1月	第2期ビジョンの公表
4月～	連携事業開始

3 富山市民芸術創造センターの耐震診断の結果について

[文化国際課]

平成7年に開館した芸術創造センター（既存棟）は、昭和5年竣工の紡績工場を改修した建物で、建設から90年以上経過し、昨年度に東側廊下の天井の一部が落下するなど、主要構造部の劣化が進んでいると考えられる。

このため、市内外から幅広い世代に利用され、施設稼働率が非常に高い当センターを、より安心・安全に利用いただくとともに、施設の長寿命化を図るため、耐震診断等を実施したので、その結果について報告するもの。

1 施設概要

構造	平屋（一部2階建て）、鉄筋コンクリート造・鉄骨造、延床面積9,371㎡
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和5年竣工の紡績工場を改修し、平成7年に開館。平成14年に増築。 ・平成28年から災害対策基本法に基づく指定避難所。
平面図	<p>増築棟 (H14～) ← → 既存棟 (H7～)</p> <p>■ 旧耐震 S5建築、H7改修 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 (① 耐震診断の対象)</p> <p>□ 新耐震 H14増築、鉄筋コンクリート造 (耐震診断対象外)</p> <p>□ 新耐震 H7増築、鉄骨造 (② 特定天井調査の対象)</p> <p>既存棟 (約6,466㎡)</p> <p>リハーサル室</p> <p>ロビー</p> <p>天井一部落下箇所 (R3.6.9)</p> <p>舞台稽古場</p> <p>入口</p> <p>入口</p> <p>北 (N)</p>

2 耐震診断結果 ※専門機関（富山県耐震診断等評定委員会）の耐震評定書を取得

耐震診断箇所	耐震診断結果	Is値
既存棟(紡績工場を改修した部分)	今後の地震による <u>倒壊の危険性は低い</u> が、 <u>避難施設として必要な耐力が不足する。</u>	東西方向:0.793 南北方向:0.710

- ※1 耐震改修促進法では、震度6～7程度の地震によって「建物が倒壊又は崩壊する可能性が低い」と判断する値（Is値）を0.6以上と定めている。
- ※2 避難施設は、同法の耐震安全性Ⅱ類（通常の1.25倍の安全性を求める）に該当するため、Is値0.75以上を判断基準とする。
- ※3 鉄骨造部分への地震力が鉄筋コンクリート造部分（耐力壁）へ伝達されることを前提として計算した。

3 今後の方針

Is値は0.6を上回っており、今後の地震による倒壊の危険性は低いが、施設稼働率が非常に高い当センターを、利用者により安心・安全に利用いただけるよう、耐震性を高めるため、来年度以降、計画的に耐震改修を行い、施設の長寿命化を図る。

また、「舞台稽古場」と「リハーサル室」の吊り天井の構造を調査した結果、平成25年の建築基準法の改正により定められた、脱落防止措置が必要な「特定天井」に該当するため、耐震改修と併せて天井改修を行う。

4 富山市スマートシティ推進ビジョンの策定について

[スマートシティ推進課]

富山市スマートシティ推進ビジョン

令和4年11月28日

TOYAMA CITY

- 【目次】
1. はじめに
 - ・なぜスマートシティ政策に取り組むのか
 - ・検討にあたっての3つの方向性
 - ・市民ニーズに基づいたビジョン策定プロセス
 - ・本ビジョンの位置づけ
 2. 富山市版スマートシティ
 3. 基本理念
 4. ビジョンの全体像
 5. ありたいまちの姿
 - ・3つのまちづくりの目標
 6. ありたい暮らし
 - ・9つの施策テーマ
 7. 取組の方向性
 - ・27の取組の方向性
 - ・取組の方向性詳細
 8. 重点領域
 9. 推進体制
 10. 推進方針
 - ・産学官民すべての関係者で共有したいこと
 - ・産学官民それぞれに期待すること
 - ・グランドルール
 11. KPI
 12. ロードマップ

参考

- ・策定体制
- ・有識者検討会議委員名簿
- ・策定プロセス
- ・既存スマートシティ事業
- ・用語集

1. はじめに

● なぜスマートシティ政策に取り組むのか

本市は、人口減少や超高齢社会の進行を見据え、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組んできました。

「コンパクトなまちづくり」は人口の転入超過や地価の上昇などの様々な成果を生み、国内外から高い評価を受ける一方、郊外や中山間地域に住む市民の中には政策の効果が実感しにくいとの声があるのも事実です。

さらに、近年は市民ニーズが多様化し、それに伴い行政課題も複雑化・高度化しており、行政だけで課題を解決していくことが困難になってきています。

このことから、本市は、近年目覚ましい発展をみせるデジタル技術を活用し「コンパクトなまちづくり」を“深化”させ、産学官民が連携して地域課題の解決を図るスマートシティ政策に取り組むこととしました。

コンパクトなまちづくりの概念図



1. はじめに

● 検討にあたっての3つの方向性

本市は、これまで進めてきたコンパクトシティ政策を継続し、さらに深め、市民生活の質や利便性を向上させるとともに、地域特性に応じた市域全体の均衡ある発展を目指すことを「目的」に、その実現のための「手段」としてスマートシティ政策に取り組みます。

したがって、スマートシティ政策によって提供されるサービスは市民の皆さまが求めるものであり、かつ、その恩恵を実感できるものであることが重要であると考えています。

このことから、本市では「富山市版スマートシティ」を明らかにするにあたり、国の「スマートシティガイドブック」なども参考にしながら、次の3つの方向性から検討することとしました。

「富山市版スマートシティ」検討の3つの方向性

- (1) コンパクト&スマート**
コンパクトシティ政策をスマートシティ政策で補完し、深化させる
- (2) 市民(利用者)中心主義**
サービス提供者(行政・企業)の目線ではなく、サービス利用者(市民)の目線で検討する
- (3) ビジョン・課題フォーカス**
「手段」としての技術やデータではなく、「目的」としてのビジョン・課題にフォーカスする

1. はじめに

● 市民ニーズに基づいたビジョン策定プロセス

富山市版スマートシティの「目的」は、**市民生活の質および利便性の向上と地域特性に応じた市域全体の均衡ある発展**です。

市民の皆さまが向上させたい「市民生活の質」や「利便性」とは何か。
市民の皆さまが求める「発展」とは何か。

この「問い」に対する答えが、本市がスマートシティ政策で達成すべき目標や成果であり、その答えを**市民の皆さまに直接問いかけ、とりまとめたもの**が、この「富山市スマートシティ推進ビジョン」です。



市内3ヶ所で計6回の市民ワークショップを開催

1. はじめに

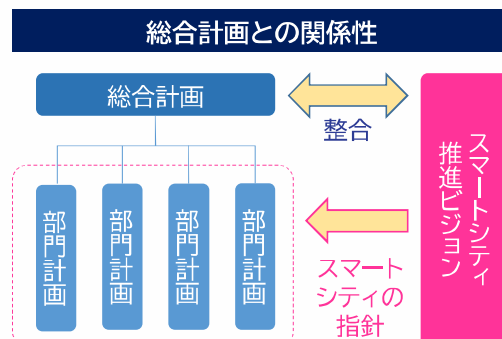
● 本ビジョンの位置づけ

「富山市スマートシティ推進ビジョン」は、市の最上位計画である総合計画との整合を図りつつ、スマートシティ推進の観点から、すべての個別部門計画に対する**総合的な指針**となるものです。

また、スマートシティは行政だけで推進するものではなく、産学官民による共創が不可欠であることから、立場や視点が異なる**産学官民がスマートシティの方向性を共有し行動するための指針**でもあります。

なお、「富山市版スマートシティ」の実現は**10年後(令和14年/2032年)**を目途としており、本ビジョンはその実現に向けた道筋を示すものです。

一方で、スマートシティを取り巻く環境は急速に変化しており、国のスマートシティ政策の方針や先端技術の動向等をふまえ、必要に応じて本ビジョンの内容も見直します。

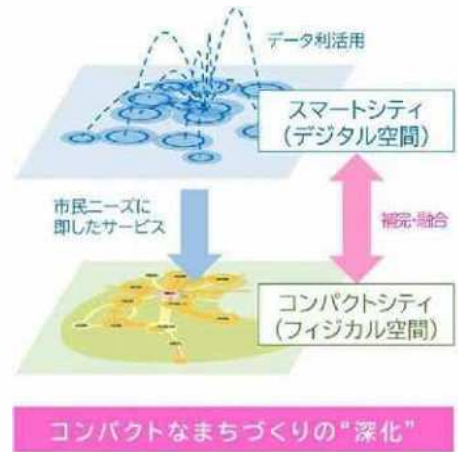


2. 富山市版スマートシティ

「富山市版スマートシティ」は、これまで本市が取り組んできたコンパクトなまちづくりを深化させるべく、デジタル技術の導入とそれにより得られるデータの利活用により、市民や地域の課題解決に資する官民のサービスを創出する政策です。

市民ニーズに即したサービスを創出するため、サービスの供給者である行政や企業等と、サービスの利用者である市民との共創による取組を推進します。

本市は、コンパクトシティ政策をスマートシティ政策で補完・融合することにより、市民生活の質および利便性の更なる向上や地域特性に応じた市域全体の均衡ある発展を目指します。



コンパクトシティ政策とスマートシティ政策の融合による幸せ日本一とやまの実現

7

TOYAMA CITY

3. 基本理念

ビジョン検討にあたり設定した「富山市版スマートシティ検討の3つの方向性」について、本市がスマートシティを推進するうえで極めて重要な視点であることから、本ビジョンにおける「基本理念」として位置づけます。

(1)コンパクト&スマート

コンパクトシティ政策を“深化”させるため、スマートシティ政策でコンパクトシティ政策を補完・融合することで、市民生活の質や利便性の向上を図るとともに、地域特性に応じた市全体の均衡ある発展を目指す

(2)市民(利用者)中心主義

サービスを供給する行政や企業の目線ではなく、サービスを利用する市民の目線で取り組むことで、市民がデジタル化による恩恵を実感できるサービスの創出を目指す

(3)ビジョン・課題フォーカス

スマートシティの「手段」としてのデジタル技術やデータではなく、「目的」であるビジョン・課題にフォーカスし、ビジョン実現や課題解決のためにデジタル技術やデータを利活用する

参考 「スマートシティガイドブック」よりスマートシティの3つの基本理念

- ・市民(利用者)中心主義
- ・ビジョン・課題フォーカス
- ・分野間・都市間連携の重視

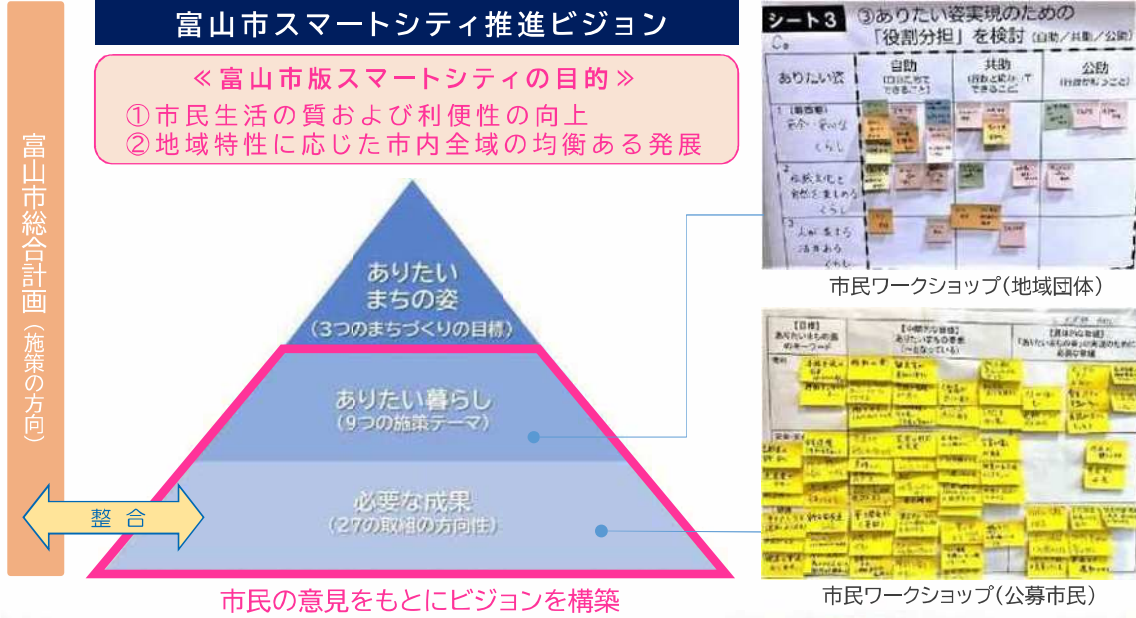
(2021年4月:内閣府等)

8

TOYAMA CITY

4.ビジョンの全体像

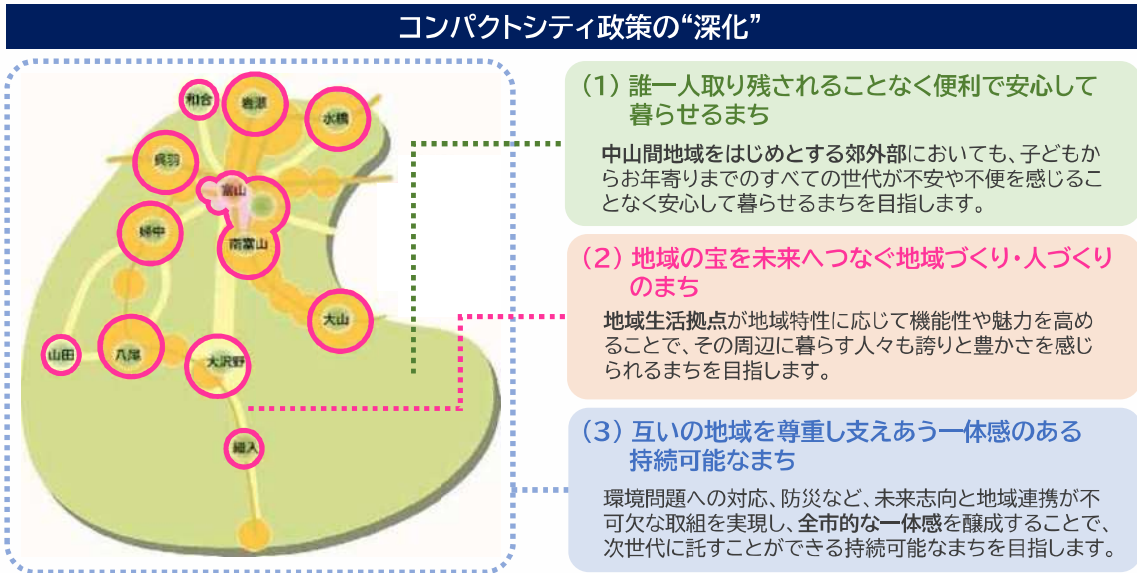
本ビジョンは、市民の皆さまの意見をもとに取りまとめ、「3つのまちづくりの目標」「9つの施策テーマ」「27の取組の方向性」によって政策目的を実現する構造とし、「取組の方向性」は総合計画の「施策の方向」と整合しています。



5.ありたいまちの姿

● 3つのまちづくりの目標

「ありたいまちの姿」は、本市がスマートシティ政策の推進によりコンパクトシティ政策の“深化”を図るとともに、政策目的を実現するためのまちづくりの目標です。



6. ありたい暮らし

● 9つの施策テーマ

「ありたい暮らし」は、ありたいまちの姿(まちづくりの目標)を実現するために目指す理想の暮らしであり、本市のスマートシティ政策の**施策テーマ**となるものです。

ありたいまちの姿(まちづくりの目標)	ありたい暮らし(施策テーマ)
[1] 誰一人取り残されことなく 便利で安心して暮らせるまち	① 便利な暮らし ② 安心・安全で健康な暮らし
[2] 地域の宝を未来へつなぐ 地域づくり・人づくりのまち	③ 誇れるものがある暮らし ④ 心が豊かでワクワクできる暮らし ⑤ 子どもの笑顔があふれる暮らし ⑥ 若い世代の活気に満ちた暮らし
[3] 互いの地域を尊重し支えあう 一体感のある持続可能なまち	⑦ 人と人のつながりがある暮らし ⑧ 地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし ⑨ 産学官民の共創が生まれる暮らし

7. 取組の方向性

● 27の取組の方向性(1/3)

ありたい暮らし(施策テーマ)を実現するために必要な成果について、市民ニーズをもとに整理し、スマートシティ政策における**取組の方向性**とします。

ありたい暮らし(施策テーマ)	取組の方向性
① 便利な暮らし	1) 車がなくても移動できる 2) どこでも必要なモノ・コト・情報を入手できる 3) どこでも仕事や勉強ができる
② 安心・安全で健康な暮らし	4) どこでも医療・介護・健康サービスが受けられる 5) 事故や犯罪がなく治安が良い 6) 雪や災害・感染症に対する備えができています
③ 誇れるものがある暮らし	7) 伝統や文化が大切に継承されている 8) 美しく豊かな自然が維持されている 9) 地域の魅力が発信できている

7. 取組の方向性

● 27の取組の方向性(2/3)

ありたい暮らし(施策テーマ)を実現するために必要な成果について、市民ニーズをもとに整理し、スマートシティ政策における取組の方向性としてします。

ありたい暮らし(施策テーマ)	取組の方向性
④ 心が豊かでワクワクできる暮らし	10) 個性や長所が尊重されている 11) 外出したくなる個性的・魅力的な場がある 12) 芸術文化・スポーツに親しんでいる
⑤ 子どもの笑顔があふれる暮らし	13) 子どもの多様な学び・交流・体験の場がある 14) 学校に行くのが楽しみになる 15) 地域ぐるみで子育てがサポートされている
⑥ 若い世代の活気に満ちた暮らし	16) 仕事が魅力的で働き方も多様である 17) 挑戦者が応援してもらえる 18) 若い世代の意見が尊重される

7. 取組の方向性

● 27の取組の方向性(3/3)

ありたい暮らし(施策テーマ)を実現するために必要な成果について、市民ニーズをもとに整理し、スマートシティ政策における取組の方向性としてします。

ありたい暮らし(施策テーマ)	取組の方向性
⑦ 人と人のつながりがある暮らし	19) 困りごとを気軽に相談できる 20) 助けあい支えあいの輪が広がる 21) 安心して参加できるコミュニティがある
⑧ 地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし	22) つくる人とたべる(つかう)人がつながっている 23) 地域の魅力が新たな交流を生んでいる 24) あらゆる活動に次世代への配慮がある
⑨ 産学官民の共創が生まれる暮らし	25) 未来への学びと対話の機会がある 26) 新たなビジネスが生まれている 27) 市民が主体的にまちづくりに参画している

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(1) 誰一人取り残されることなく便利で安心してらせるまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	① 便利なくらし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
1) 車がなくても移動できる	車を持っていない人や子ども、高齢者などの運転できない人も公共交通機関や多様な交通手段を活用し、目的地に移動できるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・AIオンデマンド交通(バス、タクシー等) ・EVカーシェアリング ・パーソナルモビリティ ・MaaS等の新たなモビリティサービス など
2) どこでも必要なモノ・コト・情報を入手できる	遠くまで移動しなくとも、自宅や近隣の公共施設等で買い物やサービス利用、行政手続きなどができるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・買物支援システム(商品購入、配達) ・行政手続きのデジタル化・オンライン化 ・パーソナライズされた行政情報の配信 など
3) どこでも仕事や勉強ができる	時間や場所に縛られることなく、やりたい仕事や学びたいことが自由に選択できるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク支援 ・オンライン教育 など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(1) 誰一人取り残されることなく便利で安心してらせるまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	② 安心・安全で健康な暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
4) どこでも医療・介護・健康サービスが受けられる	遠くまで移動しなくとも、自宅や近隣の公共施設等で医療・介護・健康サービスが受けられるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・AIによる疾病予防、メンタルヘルスケア ・健康増進、健康支援サービス など
5) 事故や犯罪がなく治安が良い	事故や犯罪を未然に防ぐための見守り体制を整えるとともに、平時から顔が分かり助け合える関係性が構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、高齢者の遠隔見守り ・電子連絡システムによる救急時連携 ・AIによる交通管制、不審者発見 など
6) 雪や災害・感染症に対する備えができている	災害発生時の自助・共助・公助の役割が明確になっているとともに、必要な情報が必要な人に迅速に届き、適切な対処ができるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・除排雪の効率化 ・電子連絡システムによる災害時連携 ・土砂災害モニタリング など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(2) 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	③ 誇れるものがある暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
7) 伝統や文化が大切に継承されている	まちの文化財や伝統工芸品、祭りなどの伝統・文化が地域の宝として住民にとっての誇りとなり、住民の手によって大切に守られ、継承されている。	・伝統文化担い手育成プログラム ・メタバース(語り部・文化資源の価値共有) ・伝統文化映像アーカイブ など
8) 美しく豊かな自然が維持されている	森や里山、海、河川などの美しい自然が地域の宝として住民にとっての誇りとなり、住民の手によって自然景観や自然の恵みが大切に維持されている。	・自然映像アーカイブ ・ドローンカメラによる里山・河川管理 ・スマート農業・林業・水産業 など
9) 地域の魅力が発信できている	住民一人ひとりが「地域の広報担当」として、自らが暮らす地域の魅力に気づき、それを地域の宝として誇りをもって外部に発信できている。	・伝統文化・自然映像アーカイブ ・YouTubeなどの配信講座 ・双方向デジタルサイネージ など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(2) 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	④ 心が豊かでワクワクできる暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
10) 個性や長所が尊重されている	他人と違うことが否定されることなく、多様性として受け入れられ、個性や長所として尊重されることで、市民一人ひとりがいきいきと生活できている。	・遠隔操作ロボットによる就業支援 ・オンライン教育 ・メタバース(価値観の共有) など
11) 外出したくなる個性的・魅力的な場がある	都市部や郊外部などエリアを問わず、全市域内に個性的・魅力的な空間やイベント、コミュニティなどが数多く生まれ、世代を問わず外出することが楽しみになっている。	・観光案内AIチャットボット ・デジタル地域通貨(まち歩きポイント付与) ・伝統文化・自然映像アーカイブ など
12) 芸術文化・スポーツに親しんでいる	芸術文化施設およびスポーツ施設が広く開放され、より使いやすくなることで、世代を問わず気軽に芸術文化・スポーツに親しむことができている。	・遠隔配信(スポーツ・芸術コンテンツ) ・施設予約システム ・芸能文化デジタルアーカイブ など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(2) 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	⑤ 子どもの笑顔があふれる暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
13) 子どもの多様な学び・交流・体験の場がある	地域の宝である子どもたちに対し、学校だけでなく、地域コミュニティや家庭も主体となって多様な学び・交流・体験の機会が提供され、地域全体で子どもの成長を見守る環境がとれている。	・オンライン教育 ・不登校児童・生徒向けの学習支援システム ・デジタルリテラシー教育 ・メタバース(語り部、地域の芸術家、スポーツ指導者) など
14) 学校に行くのが楽しみになる	地域の宝である子どもたちが学習への抵抗感やいじめ等に悩むことなく、日々学校に行くことが楽しみになっている。	・GIGAスクール ・メンタル状況の可視化によるいじめの早期発見・防止 など
15) 地域ぐるみで子育てがサポートされている	地域の宝である子どもたちを地域ぐるみで守り、育む環境があるだけでなく、若者が安心して子育てできるように、親に対しても発育段階に応じた切れ目のないサポートが行われている。	・子育て支援AIチャットボット ・IoTセンサーや防犯カメラ ・メタバース(語り部、スポーツ指導者) など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(2) 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	⑥ 若い世代の活気に満ちた暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
16) 仕事が魅力的で働き方も多様である	若者が働きたいと思える魅力的な仕事生まれ、若者の価値観やライフスタイルに合った多様な働き方が浸透することで、若者が定着し、地域が活性化している。	・移住・就業・事業継承マッチング ・サテライトオフィス ・ワーケーション環境整備 など
17) 挑戦者が応援してもらえる	若者が起業や企業の新規事業、地域社会の課題解決などに失敗を恐れず挑戦できる環境があり、それを応援する人が数多く生まれ、地域が活性化している。	・起業や企業内改革支援プロジェクト ・メタバース(異業種交流) ・情報共有プラットフォームの構築 など
18) 若い世代の意見が尊重される	次世代を担う若者が、地域の宝として尊重され、意見を出しやすくなるとともに、社会経済活動にも積極的に参加するようになり、地域が活性化している。	・メタバース(多世代交流) ・市民共創プログラム など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(3) 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	⑦ 人と人のつながりがある暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
19) 困りごとを気軽に相談できる	困りごとを相談したい人と、その相談を受けられる人がつながり、市民が地域の枠組みを越えて困りごとを気軽に相談できるようになっている。	・各種相談チャットボット ・オンライン相談窓口 など
20) 助けあい支えあいの輪が広がる	お年寄りや障がい者などの手助けを必要としている人と手助けができる人がつながり、市民が地域の枠組みを越えて助けあい支えあえるようになっている。	・デジタル地域通貨(ボランティアポイントの付与) など
21) 安心して参加できるコミュニティがある	個人の興味や関心、相性などに応じて人と人がつながり、市民が地域の枠組みを越えて安心して参加できるコミュニティが生まれている。	・メタバース ・デジタル回覧板 など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(3) 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	⑧ 地域の魅力をつかちあい支えあえる暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
22) つくる人と食べる(つかう)人がつながっている	農林水産業が魅力ある産業として活性化するとともに、生産者と消費者がつながることで、環境価値や社会的価値が可視化され、地産地消が進んでいる。	・スマート農業、林業、水産 ・地域食品資源循環ソリューション など
23) 地域の魅力が新たな交流を生んでいる	観光が魅力ある産業として活性化するとともに、地域と地域がつながることで、マイクロツーリズムなどの新たな観光・地域間交流が進んでいる。	・観光案内AIチャットボット ・観光行動の可視化 ・ドローンを活用した体験型観光 など
24) あらゆる活動に次世代への配慮がある	環境負荷が可視化されて意思決定の基準として活用されるなど、あらゆる経済社会活動において次世代への配慮がなされている。	・エネルギーの地産地消マネジメントシステム ・地域食品資源循環ソリューション ・EVカーシェアリングと将来的なVPP(仮想発電所)展開 など

7. 取組の方向性

● 取組の方向性詳細

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	(3) 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち	
ありたい暮らし (施策テーマ)	⑨ 産学官民の共創が生まれる暮らし	
	取組の方向性	実現するための手段として想定される事項
25) 未来への学びと対話の機会がある	不確実性が高く、変化の激しい時代において、求められる知識・ノウハウを学ぶ機会や人的ネットワークを拡大する機会が充実している。	・未来のデジタル人材育成 ・多世代交流デジタルツール など
26) 新たなビジネスが生まれている	ビジネス実証・実装のための機会が充実しているとともに、多様な主体による未来志向の共創が進んでいる。	・リビングラボ ・インキュベーション施設の連携 ・産学官エコシステムの構築 など
27) 市民が主体的にまちづくりに参画している	まちの姿や課題が可視化され、市民がまちづくりに対する関心を高めるとともに、まちづくりに関わる機会が増えている。	・オープンデータ ・シビックテック など

8. 重点領域

スマートシティ政策を推進するにあたっては、27の取組の方向性に着実に取り組みながらも、身近なところで市民が変化や効果を実感できることが極めて重要です。そうした観点から、「取組の方向性」のうち「ありたいまちの姿」(まちづくりの3つの目標)ごとに「重点領域」を定め、優先して取り組むこととします。

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	ありたい暮らし (施策テーマ)	取組の方向性	重点領域の考え方
[1] 誰一人取り残されることなく便利で安心して暮らせるまち	① 便利な暮らし	2) どこでも必要なモノ・コト・情報を入手できる 中山間地域をはじめとする郊外部においても買い物等で不便を感じることがないようにデジタル技術によるサービス利用を促進する	特に中山間地域をはじめとする郊外部において市民が日常的に不便を感じている領域
[2] 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち	⑤ 子どもの笑顔があふれる暮らし	15) 地域ぐるみで子育てがサポートされている 各地域生活拠点において地域ぐるみで子育て環境を充実させられるようデジタル技術を活用したサービス導入を促進する	地域生活拠点において必要性が高く、その機能向上で周辺に暮らす人々も豊かさを実感できる領域
[3] 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち	⑨ 産学官民の共創が生まれる暮らし	25) 未来への学びと対話の機会がある デジタル格差解消や高度デジタル人材の育成など、スマートシティ推進のための基盤となる学びと対話の機会づくりを促進する	地域ごとに限定することなく、未来志向により全市的に取り組む必要がある領域

9.推進体制

市民ニーズや地域課題とのマッチングを図り、企業・団体による創造性の高い提案を促すため、スマートシティ推進課に「ワンストップ窓口」を設置します。
公共財を活用し、かつ複数所属にまたがる提案については、推進主体である富山市スマートシティ推進本部において「ワーキンググループ」を設置し、事業化に向けた調査・検討を行います。
富山市スマートシティ推進プラットフォームは推進本部と連携し、本市のスマートシティ推進のための“エンジン”として、産学官連携プラットフォームの機能を果たし、積極的に事業提案を行います。



市民目線の困りごと・地域の課題を解決するスマートシティ事業の創出

10.推進方針

● 産学官民のすべての関係者で共有したいこと

スマートシティ政策は、産学官民の関係者が本ビジョンを共有したうえで、共通理解の下で進めていく必要があることから、「富山市版スマートシティ」における3つの推進方針を設定します。

(1) データの利活用と意識醸成

政策(行政)、企業活動(企業)、豊かさ(市民)など様々な分野において、データによる「見える化」に取り組むことにより、意思決定の根拠や事業の進捗状況等を明確化し多様な方々の納得感を生み出すとともに、暮らしや経済における課題解決や価値の向上・創造を目指します。
また、データの収集・見える化・分析の意義についての意識を醸成します。

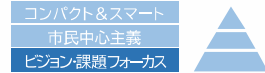
(2) デジタル人材を増やす／デジタル人材になる

データサイエンティストに代表される高度なデータの利活用だけでなく、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)、センサーなどのデジタル技術を業務や暮らしの中で上手に活用できる様々なデジタル人材の拡大を目指します。

(3) デジタル格差の解消／情報リテラシー(理解度)の向上

情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差(デジタルデバイド)を少なくし、安全で有意義なスマートフォンやインターネット等の使い方について、学び教え合います。

10.推進方針

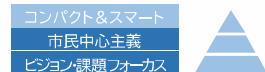


● 産学官民それぞれに期待すること

スマートシティ政策は、産学官民の関係者が本ビジョンを共有したうえで、共通理解の下で進めていく必要があることから、「富山市版スマートシティ」における**役割期待**について明記します。

行政(官)	民間事業者(産)
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは行政が率先してデジタル化に取り組む ・継続的な改善とDX推進 ・データのオープン化と利活用 ・産学官民のプラットフォーム(体制)づくり ・行政間連携、庁内連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化による生産性向上とDX推進 ・ビジネスを通じた社会問題や地域課題の解決 ・行政や学術機関等との共創
市民・地域団体(民)	学術機関・研究機関(学)
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で各種デジタルサービスを積極的に使ってみる ・データの価値への理解 ・市や地域への関心を高める(データ等を見てみる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や社会人へのデジタル技術・データ活用教育 ・公開講座を通じた地域住民の情報リテラシー(理解度)向上 ・行政や民間事業者等との共創による研究・社会実装(イノベーション・エコシステムの形成)

10.推進方針



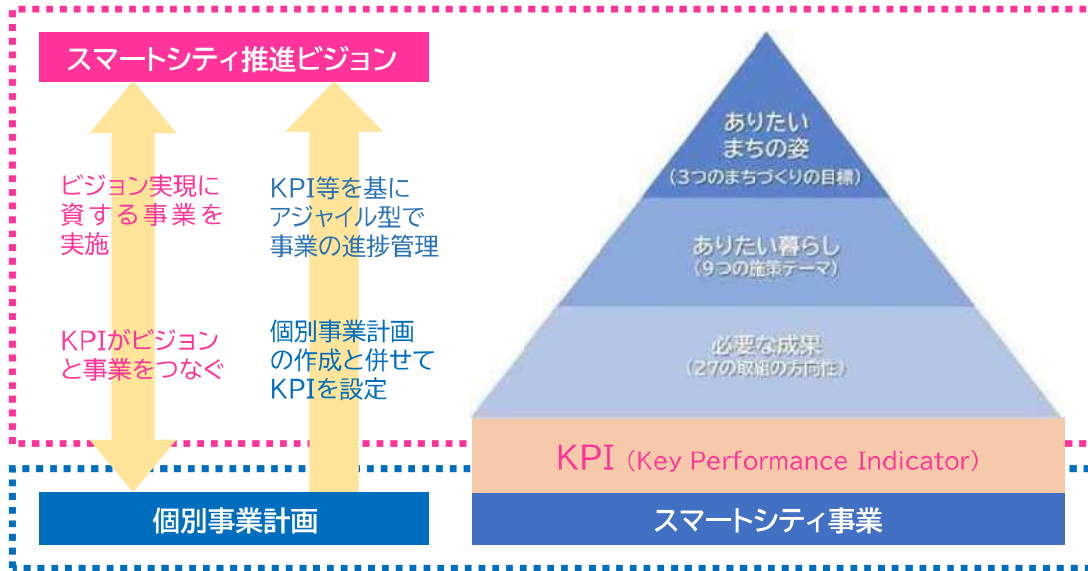
● グランドルール

グランドルール(産学官民の様々な参加者が活発に協議しながら、共にスマートシティを推進するための共通認識として定める大枠のルール)を定め、「富山市版スマートシティ」を推進します。

ルールの目的	グランドルール
市民目線かつ今ある形に捉われないサービス設計	1. 市民目線で課題やニーズ把握に努め、市民ファーストなサービス設計 2. 産学官民の共創による多様かつ多面的な視点で、今ある形に捉われない「真に市民が求めるサービス」を設計
将来の社会構造変化に対応したサービスの創出	3. 小さく生み出し、迅速・柔軟に改善が可能な「アジャイル型」でのサービス創出 4. 失敗を次へと生かせるチャレンジングなサービスの創出
無駄を省き、向上し続けるサービス	5. 「なんとなく」サービスを継続せず、データに基づいてサービスの改善・廃止を常に検討
市民に安心頂けるデータ管理の徹底	6. データを収集する際は、取扱いルールを定め、事前に公開 7. 市民の「提供データの主権者」としての権利(同意・利用確認・破棄)の担保を徹底
データ連携による新たな価値創造	8. 適切に処理されたデータは地域の産学官で共有し、新たな価値を生み出す 9. 適切に処理されたデータが流通しやすい環境(データの標準化・都市OS)を整備
スマートシティに対応した人材の育成と情報弱者支援	10. 情報弱者も取り残さないための「デジタルデバйд」対策 11. 次世代のスマートシティを担う人材の育成

11.KPI

本ビジョンは、KPIがビジョンと各事業をつなぐ役割を果たすことで、ビジョン実現に資する事業が推進される設計とし、今後は国がスマートシティ事業の進捗管理で推奨するロジックモデルやLWC指標も参考にしつつ、個別具体の事業計画について検討していきます。



12.ロードマップ

本ビジョンを実現するため、産学官民が推進体制・推進方針(グランドルール)に基づき、サービス設計・創出、データ管理・データ連携、人材育成・情報弱者支援・市民参加に取り組むにあたってのロードマップを示します。

	現状	5年後	10年後
サービス設計・創出	重点領域の設定、課題解決・価値創造サービスの検討	重点領域を中心とした課題解決・価値創造サービスの実証・一部実装	<ul style="list-style-type: none"> サービスの全市展開 サービスの横展開
「アジャイル型」でサービスを提供し、トライ＆エラーしながら完成度を向上			
データ管理・データ連携	行政データのオープン化 既存都市OSの改善検討	産学官民のデータの相互活用 都市OSの機能拡張	<ul style="list-style-type: none"> まちの“見える化”の実現 EBPMの実現 スマートシティに資するエコシステム形成
産学官民の間でのデータのオープン化・見える化を進めながら、連携のための基盤を構築			
人材育成・情報弱者支援・市民参加	データサイエンス教育、デジタルデバイド対策等による産学官民の地域人材におけるデジタルリテラシー向上 市民ワークショップ等を通じたまちづくりへの参加機運の醸成	シビックテックの展開による市民のまちづくりへの参画機会の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 市民のデジタルリテラシー向上 高度デジタル人材の輩出 市民共創の実現

富山市版スマートシティの実現

参 考

参考1:策定体制

①富山市スマートシティ推進本部

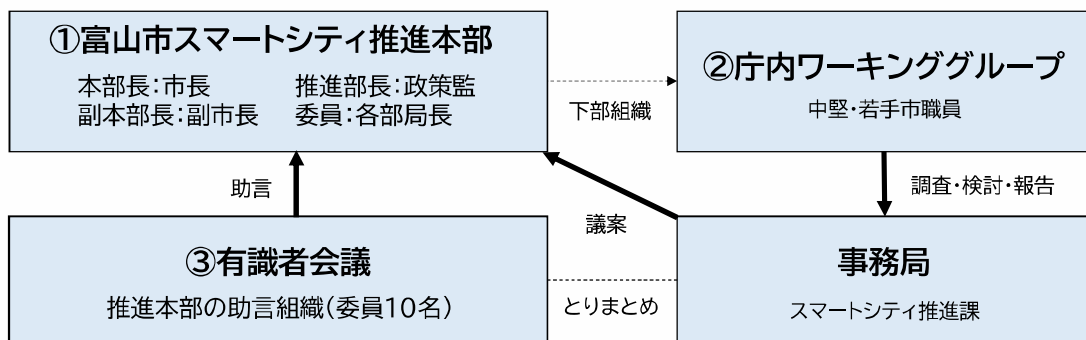
本市のスマートシティの推進に関する事項を所掌する庁内組織(本部長:市長)

②庁内ワーキンググループ

推進本部及び有識者会議に提示する議案等について調査・検討する推進本部の下部組織

③有識者会議(富山市スマートシティ推進ビジョン検討有識者会議)

スマートシティに関する専門知識や実務経験を有する者で構成する推進本部の助言組織



参考2:有識者会議委員名簿

※敬称略

早稲田大学理工学術院 教授	森本 章倫(座長)
NECソリューションイノベータ株式会社 北陸支社シニアプロフェッショナル、 富山大学経済学部 教授	金山 義男
東京大学先端科学技術研究センター 教授	小泉 秀樹
株式会社笑農和 代表取締役	下村 豪徳
一般社団法人リンクデータ 代表理事、 デジタル庁 デジタル社会共通機能グループ データスペシャリスト	下山 紗代子
株式会社マラスキー 代表取締役	土肥 恵里奈
コード・フォー・トヤマシティ 代表、 株式会社EvoLiNQ 代表	富成 敬之
株式会社アイパック 代表取締役	東出 悦子
富山県知事政策局 デジタル化推進室 行政デジタル化・生産性向上課長	前田 秀一
株式会社インテック 行政システム事業本部 事業推進部DX推進ディレクター	安平 剛

33

TOYAMA CITY

参考3:策定プロセス

	検討主体	検討プロセス	ビジョン項目
R3.6月	第1回富山市スマートシティ推進本部会議		ビジョンの位置づけ 検討にあたっての3つの方向性
R3.6~11月	庁内ワーキンググループ	調査・検討	
R3.11月	事務局(富山市未来戦略室)	先進地視察(会津若松市、前橋市) 有識者会議の議題設定	
R3.11月	第1回富山市スマートシティ検討有識者会議	ビジョン検討にあたっての助言等	
R4.1月	市民ワークショップ(地域団体) ※一部はR4.3月に延期して開催	ビジョン検討にあたっての市民の意見の反映	ありたい暮らし
R4.2月	事務局(富山市未来戦略室)	中間報告(案)の作成	ありたいまちの姿
R4.2月	第2回富山市スマートシティ検討有識者会議	中間報告(案)に対する意見等	
R4.3月	事務局(富山市未来戦略室)	中間報告の公表	
R4.5月	市民ワークショップ(公募市民)	ビジョン検討にあたっての市民の意見の反映	取組の方向性
R4.5~6月	企業・団体ヒアリング	ビジョン検討にあたっての企業・団体の意見の反映 ※市民ニーズ(ありたい暮らし・課題)に基づきヒアリング	取組の方向性
R4.7月	事務局(富山市スマートシティ推進課)	ビジョン(素案)の作成	重点領域 推進体制 推進方針 ロードマップ KPI
R4.8月	第3回富山市スマートシティ検討有識者会議	ビジョン(素案)に対する意見等	
R4.9月	第2回富山市スマートシティ推進本部会議	ビジョン(案)の承認	
R4.9~10月	パブリックコメント(市民)	ビジョン(案)に対する意見等	
R4年11月	富山市スマートシティ推進ビジョン策定		

34

TOYAMA CITY

参考4:既存スマートシティ事業

2
どこでも必要な
モノ・コト・情報を
入手できる

Toyama Smart City Square (情報可視化サービス)



市役所窓口の混雑情報や河川の水位情報など、市が保有するデータを一元化、可視化して提供するサービス。令和3年4月1日より運用開始。

【主な掲載情報】

窓口混雑状況、道路工事・通行制限情報、消防車両出動情報、河川水位情報、雨量情報など



スマホで市役所窓口の混雑状況・待ち人数をリアルタイムで把握

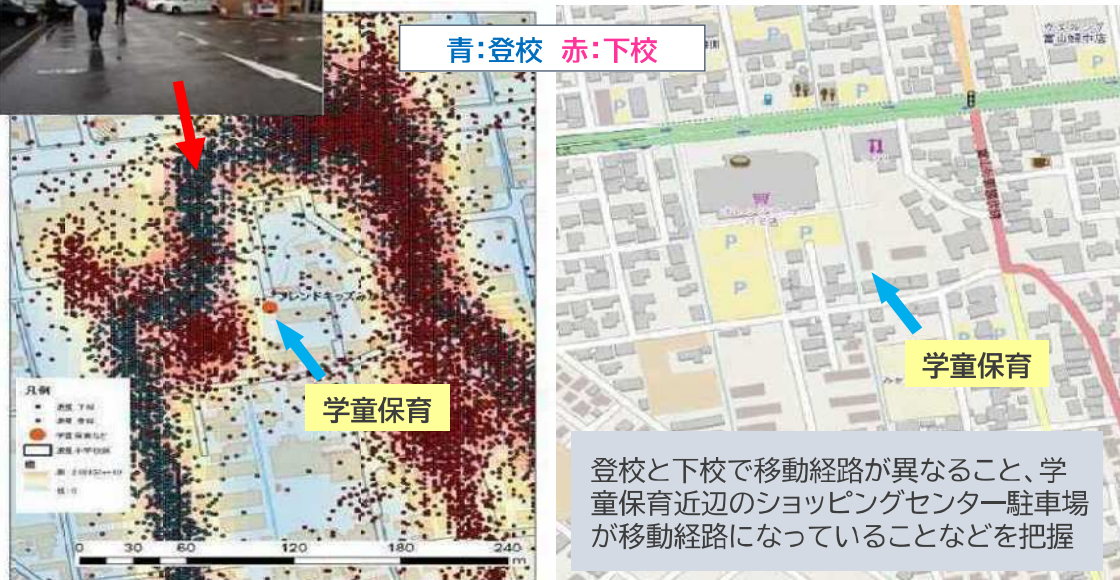
参考4:既存スマートシティ事業

5
事故や犯罪が
なく治安が良い

富山市センサーネットワーク (こどもを見守る地域連携事業)



児童が持つGPSセンサーから移動経路情報を収集(任意)し、得られたデータを地域の見守り活動で活用



登校と下校で移動経路が異なること、学童保育近辺のショッピングセンター駐車場が移動経路になっていることなどを把握

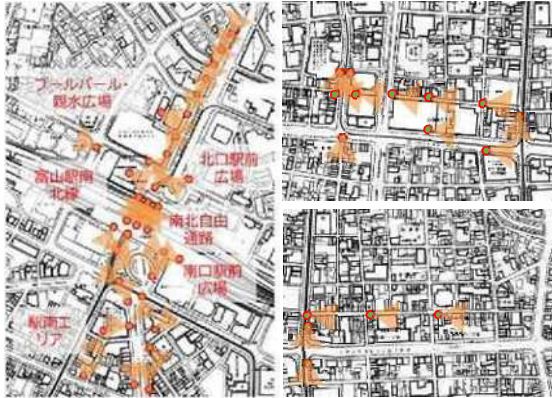
参考4:既存スマートシティ事業

11
外出したくなる
個性的・魅力的な
場がある

スマートプランニング事業 (AIカメラによる人流データ計測・活用)

- AIカメラの設置によるデータ分析を通し、各種施策の効果把握やフィードバック、新たな取り組みの創出など、スマートプランニングの実現を目指す。
- 富山駅周辺エリア・中心商業地区などの人流等の解析により、人が集い・賑わい・交流する場などをオープンデータ化することで地域経済の発展を図るとともに、税収の増加に繋げる。

【設置箇所:計52台(予定)】



【設置イメージ】

日、時間ごとの「通行量」「年齢」「性別」などの情報をLTE通信により転送



AIカメラ



左:富山駅周辺(24台) 上:総曲輪周辺(18台) 下:中央通り周辺(10台)

参考4:既存スマートシティ事業

15
地域ぐるみで
子育てがサポ
ートされている

子育て支援AIチャットボット

子育て世帯等がいつでもスムーズに必要な情報を得られるよう、AIが24時間365日、子育てに関するお問い合わせに答えるサービスを導入。

1. 特徴

- (1) AIが子育て世帯等からの質問に自動応答
- (2) スマートフォン等からいつでも利用可能

2. 利用方法

- (1) 市の子育て支援ウェブサイト「育さぼとやま」のアイコン
- (2) LINE公式アカウント「富山市子育て支援LINE」を友だち登録

※令和4年4月より運用開始

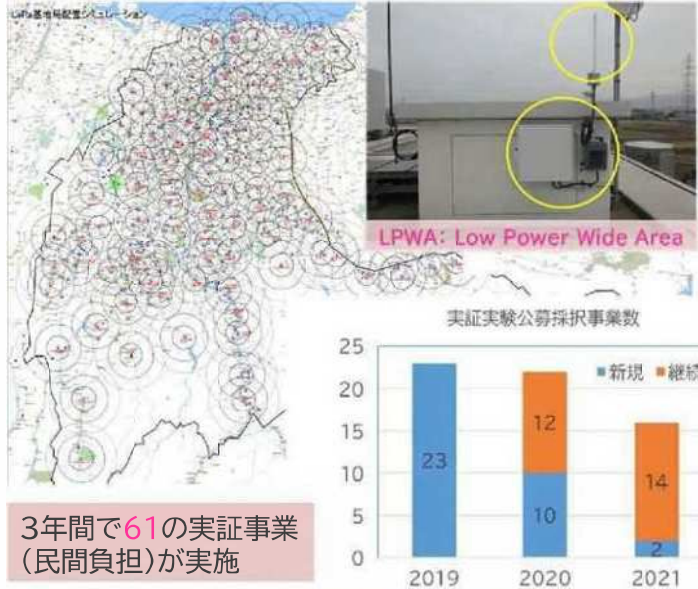


参考4:既存スマートシティ事業

26
新たなビジネス
が生まれている

富山市センサーネットワーク（民間事業者向け実証実験公募）

居住人口の98.9%をカバーするLPWAセンサー網を整備。民間企業に対し、データ収集環境を提供し、新たなIoTサービスの創出を図る実証実験公募事業を実施。



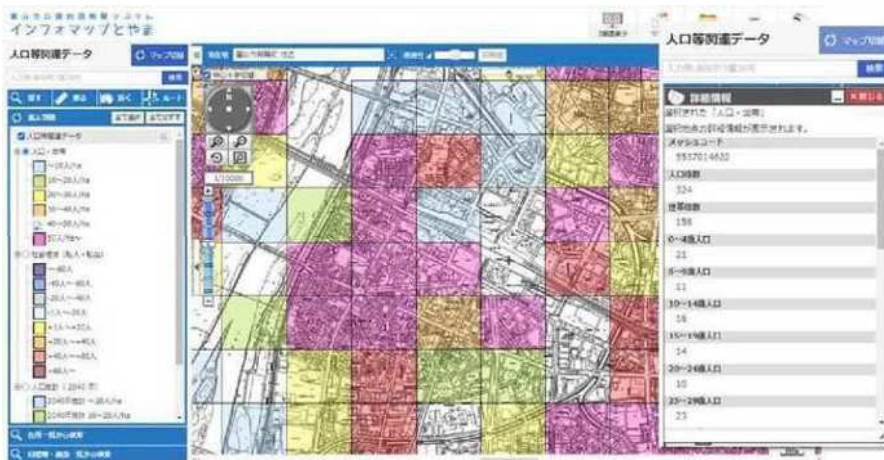
参考4:既存スマートシティ事業

27
市民が主体的に
まちづくりに参
画している

人口等関連データのオープン化

スマートシティの実現に向けて、令和4年10月より、メッシュ単位で集計化したデータを公開・可視化して提供する取り組みを開始。

【公開型GIS(インフォマップとやま)での公開】



- 【公開データ】
- ①人口世帯分布
250m四方の人口総数や5歳階級別人口などを掲載
 - ②社会増減
250m四方の転入者数や転出者数などを掲載
 - ③将来人口推計
500m四方の2040年時点の将来推計人口、年齢別人口などを掲載

誰もが直感的にまちの現状等を把握・共有できることで、地域のまちづくり活動のきっかけづくりなどを支援

参考4:既存スマートシティ事業

27
市民が主体的に
まちづくりに参
画している

未来共創 (“地域課題解決型”官民連携プラットフォーム)

- 市内全域を“ラボ(実験室)”と位置づけ、産学官民の連携により課題解決を価値創造につなげる“地域課題解決型”官民連携プラットフォームを構築。
- 拠点施設「スケッチラボ」を活用し、ITを使って地域課題を解決するアイデアを競う「アイデアソン」や、そのアイデアを実現するためのデータ活用やアプリ開発などを行う「ハッカソン」など、様々な共創プログラムを実施。



参考5:用語集

	用語	説明	ページ番号
あ	IoT	Internet of Thingsの略。あらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にするといった概念・コンセプトのこと。	19,26,39
	アーカイブ	一般的には、記録や資料などをひとまとめにして保存することや、そのようにしてまとめられた資料群のこと、さらにはその保存場所や保存機関のことを指す。	17,18
	アジャイル(型)	「素早い・俊敏」という意味の英単語で、システムやソフトウェア等の開発において小さな単位で実装とテストを素早く繰り返しながら開発を進めて行くやり方のこと。	28,29,30
	EBPM	Evidence Based Policy Making (=証拠に基づく政策立案)の略。政策の企画立案を勘や経験、その場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化させ、政策手段と目的の理論的なつながりを明確にし、このつながりの裏付けとなるようなデータなどのエビデンス(根拠)を可能な限り求め、政策の基本的な枠組みを明らかにする取り組みのこと。	30
	EV	Electric Vehicleの略。電気自動車のことで一般的にはモーターで車輪を駆動する自動車のことを指し、車内に二次電池(蓄電池)を搭載して外部からの電力供給で充電し、その電力で走る車のこと。	15,22
	インキュベーション施設	英語の「卵を抱くこと、卵がかえること」の意味から転じて、創業者や起業家の経営が軌道に乗るまで、施設や資金などの援助を行い、育成することを目的とした施設のことを指す。	23
	AI(人工知能)	Artificial Intelligenceの略。学習・推論・判断といった人間の知能のもつ機能を備えたコンピュータシステムのこと。	15,16,18 19,22ほか
	AIチャットボット	人工知能を組み込んだコンピュータが利用者からの問いかけに対し、自動的に応答するプログラムのこと。	18,19,22, 38
	エコシステム	ビジネスの「生態系」であり、企業や顧客をはじめとする多数の要素が集結し、分業と協業による共存共栄の関係を指す。	23,27,30
	LWC指標	Liveable Well-Being City指標の略。 1)主観的幸福感指標(心の因子)、2)活動実績指標(行動の因子)、3)生活環境指標(環境の因子)の3つの領域に分類され、地域における市民の主観的な幸せを測る指標や、「場」や「関係性」に関する地域で循環する幸せを測る指標など、5つの指標で構成されている。デジタル庁により全国自治体向けの共通指標として指定され、政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、地域におけるWell-Beingを計測する指標として活用されることになっている。	29
オープンデータ	政府や独立行政法人、自治体などが保有する公共データが、国民や企業などが利活用しやすいように機械判読に適した形で、二次利用可能なルールの下で公開されること、また、そのように公開されたデータのことを指す。	23,37	
オンデマンド交通	利用者の予約に応じて運行する乗合型の公共交通サービスのこと。	15	

参考5:用語集

	用語	説明	ページ番号
か	カーシェアリング	一般的には登録を行った会員間で特定の自動車を共同使用するサービスまたはシステムのこと。	15,22
	GIGAスクール構想	Global and Innovation Gateway for Allの略。「1人1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」の構想のこと。	19
	KPI	Key Performance Indicatorsの略で、目標の達成度を評価するための主要な評価指標のこと。	29,34
	コンパクトシティ	人口減少社会に対応するために都市機能を集約する政策のことで、富山市では①公共交通の活性化、②公共交通沿線地区への居住推進、③中心市街地の活性化、を3本柱とし、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを行っている。	4,7,8,10
	コンパクトなまちづくり	市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に居住機能、医療・福祉等の生活サービス機能等を集積させる都市施策のこと。	3,7
さ	サテライトオフィス	企業本社や、官公庁・団体の本庁舎・本部から離れた場所に設置されたオフィスのこと。	20
	シビックテック	Civic(市民)とTech(テクノロジー)を掛け合わせた造語で、市民がテクノロジーを活用して、地域が抱える課題を解決しようとする取り組みや考え方のこと。	23,30
	市民ファースト	市民の利益を最優先に考えること。	28
	情報弱者	コンピュータやインターネットなどの情報通信技術を利用することが困難な人のこと。	28,30
	情報リテラシー/デジタルリテラシー	情報機器を正しく適切に利用できる狭義の場合と、操作能力に加えて、情報を取り扱う上での理解、さらには情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用するための能力までを含む広義の場合がある。	19,26,27,30
	スマートシティ	ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創造し続ける、持続可能な都市や地域のこと。	3,4,5,6ほか
	スマートプランニング	個人単位の行動データをもとに、人の動きをシミュレーションし、施策実施の効果を予測した上で、施設配置や空間形成、交通施策を検討する計画手法のこと。	37
	ソリューション	情報通信技術の分野では、さまざまな要求や問題点を包括的に解決する解決策を指す。	22

参考5:用語集

	用語	説明	ページ番号
た	DX	「デジタル・トランスフォーメーション」の略。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変革させること。	27
	データサイエンティスト	ビッグデータ等の大量なデータから必要な情報を収集・抽出・分析しビジネスの状況改善に向けた施策立案を行うプロフェッショナル人材のこと。	26
	デジタル回覧板	これまで町内会等で回覧されていた回覧板をインターネット上やアプリ上で閲覧できるようにしたもの。	21
	デジタルサイネージ	電子看板。屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ネットワークに接続したディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムのこと。	17
	デジタル人材	最先端のデジタル技術を活用して、組織の成長や新たな価値を生み出す人材のこと。	23,24,26,30
	デジタル地域通貨	特定の地域内で使える電子通貨で、スマートフォンの専用アプリなどを使って決済する。商品券のように消費者から事業者への支払いだけに使えるものや事業者間の決済にも使えるものがある。	18,21
	デジタルデバйд/情報格差	インターネット等の情報通信技術を利用できる人と、できない人との間に社会的・経済的格差が生じること。	26,28,30
	テレワーク	情報通信技術を活用した、時間と場所にとらわれない、柔軟で多様な働き方。企業等に勤務する被雇用者が行う雇用型テレワーク(例:在宅勤務、モバイルワーク、サライトオフィス勤務等)と、個人事業者・小規模事業者等が行う自営型テレワーク(例:SOHO、住宅ワーク)に大別される。	15
	都市OS	スマートシティ実現のために、スマートシティを実現しようとする地域が共通的に活用する機能が集約され、スマートシティで導入する様々な分野のサービスの導入を容易にさせることを実現するデータ連携基盤のこと。①相互運用(つながる)、②データ流通(ながれる)、③拡張容易(つづけられる)、という3つの機能が求められる。	28,30
	ドローン	遠隔操作または自動操縦で飛行できる、小型で自動操縦できる機体全般を指す。	17,22
は	パーソナライズ	顧客全員に同じサービスやコンテンツを提供するのではなく、一人ひとりの属性や購買、行動履歴に基づいて最適な情報・サービスを提供する手法のこと。	15
	プラットフォーム	英語の「舞台、壇上」の意味から転じて、行政やビジネスの分野では、「共通の土台」を示す。また、情報通信技術の分野では、サービスやシステムなどが稼働するための土台となる情報基盤や環境のことを指す。	20,25,27,41

参考5:用語集

	用語	説明	ページ番号
ま	MaaS	Mobility as a Serviceの略。地域住民や旅行者一人ひとりの移動ニーズに対応し、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービスのこと。	15
	メタバース	「meta=超」と「universe=宇宙」を組み合わせた造語。コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、3次元の仮想空間やそのサービスのことを指す。	17,18,19 20,21
	メンタルヘルスケア	心の健康を保つための世話や配慮、気配り、仕組みなどのこと。	16
	モビリティサービス	個々の移動ニーズに対して、鉄道やバス等の公共交通やカーシェアリングなど、移動をスムーズに行うために提供されるサービスのこと。近年はMaaSなど、情報通信技術を活用して利用者の利便性を増進する新たなサービスも提供され始めている。	15
ら	ライフスタイル	生活のしかたや様式のこと。	20
	リビングラボ	生活空間(Living/リビング)を実験室(Lab/ラボ)とみなし、生活者を巻き込んだ形で実証実験等を行うことで、生活者目線に立った商品やサービスを開発する取組。	23
	ロジックモデル	政策における論理構造(ロジック)を可視化することを目的に、施策や事業の方向性とその結果生じる成果の関係を見やすく表現したもの。	29
	ロードマップ	目標を達成するまでに行うべきことを時系列順にまとめた計画案、行程表のこと。	30,34
わ	ワーケーション	「Work(仕事)」と「Vacation(休暇)」を組み合わせた造語。リゾート地や地方等の普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組み。	20